

BLCJ 構造標準<改訂 3 版>発行にあたり

BLCJ 建築部会 構造 WG では、2021 年 3 月に発行した BLCJ 構造標準<令和 2 年度版>において RC 柱、梁、S 造柱、梁に関するパラメータの標準化を行った。その後 2021 年 10 月に BLCJ 構造標準<令和 3 年度版>として改訂を行い、令和 2 年度版の改良と床、壁に関するパラメータの標準化を行った。今回 BLCJ 構造標準<改訂 3 版>（以下構造標準）として令和 3 年度版の改良と共に、新たに場所打ち杭を追加した。

また、今回の改訂では設備分野で先行している BLCJ 標準との比較を行い、追加を行う情報として、構造標準に新たに OmniClass、Uniclass2015 で分類した場合の推奨値を加えることとした。国内ではこれらの分類は現段階で一般的ではなく、このため推奨値としていることを強調しておきたい。

構造標準は構造設計で伝えるべき情報を規定し、また構造設計で利用する一貫構造計算ソフトと BIM オーサリングツール等、異なるソフトウェア間の情報連携効率を高めることを目的として、2020 年 9 月より構造 BIM 関連各団体より代表者が参加し作成している。

具体的には一般社団法人 buildingSMART Japan、一般社団法人日本建築構造技術者協会、Revit User Group Japan (RUG)、BIM Summit の 4 団体より各 2 名の代表者が参加し、各団体でのこれまでの検討結果を元に各団体間の調整を行い、構造標準に反映している。

これまでのところ構造標準は主に建物を構成する構造部材のうち 7 割程度を補完することを想定して作成しており、今後はそのほかの部材等についても標準化を進めていく。